

都心活性化プラン（仮称）について（案）

1 背景・目的

人口減少や超高齢化の進行など社会経済情勢が大きく変化する中、持続的に都市の活力を維持・向上していくためには、市街地の拡大を抑制し、様々な都市機能を拠点に集積させる「集約型都市構造」への転換が求められています。

また、広域的な地域の活力向上という面においても、社会経済活動を支える中心都市の役割は大きくなっており、「活力とにぎわいにより、中四国地方の発展をリードする都市」を目標の一つに掲げる本市は、引き続き、都市機能の充実・強化を図り、中枢拠点性を高めていく必要があります。

とりわけ、都心は、都市の活力とにぎわいを生み出す中心となる場所であり、本市においては、広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を都心の東西の核と位置付け、都市機能の集積・強化を図ることにより、相互に刺激し高め合う「楕円形の都心づくり」を進めています。また、本市は、広島県と連携して本市の都心が市域・県域の発展をけん引するとともに、200万人広島都市圏の形成に資するよう、都心の活性化に取り組んでいます。

こうした取組をより一層推進し、国内外の人々や企業などを惹きつける都心の魅力向上や質の高い都市環境の整備などに取り組み、都心を活性化するため、中長期的な視点で広島市都心部の目指すべき姿や将来像、その具体化に向けた施策等を示す「都心活性化プラン（仮称）」（以下「本プラン」という。）を策定します。

2 位置付け

本プランは、「広島市基本構想」や「広島市都市計画マスタープラン」を上位計画として策定します。

「広島市基本構想」では「国際平和文化都市」を都市像として掲げ、また、「広島市都市計画マスタープラン」では“活力”、“魅力”、“快適性”という三つの視点で、都市づくりの目標を設定しています。本プランは、これらの都市像や都市づくりの目標を踏まえた、都心のまちづくりの方向性を示すものです。

3 目標年次

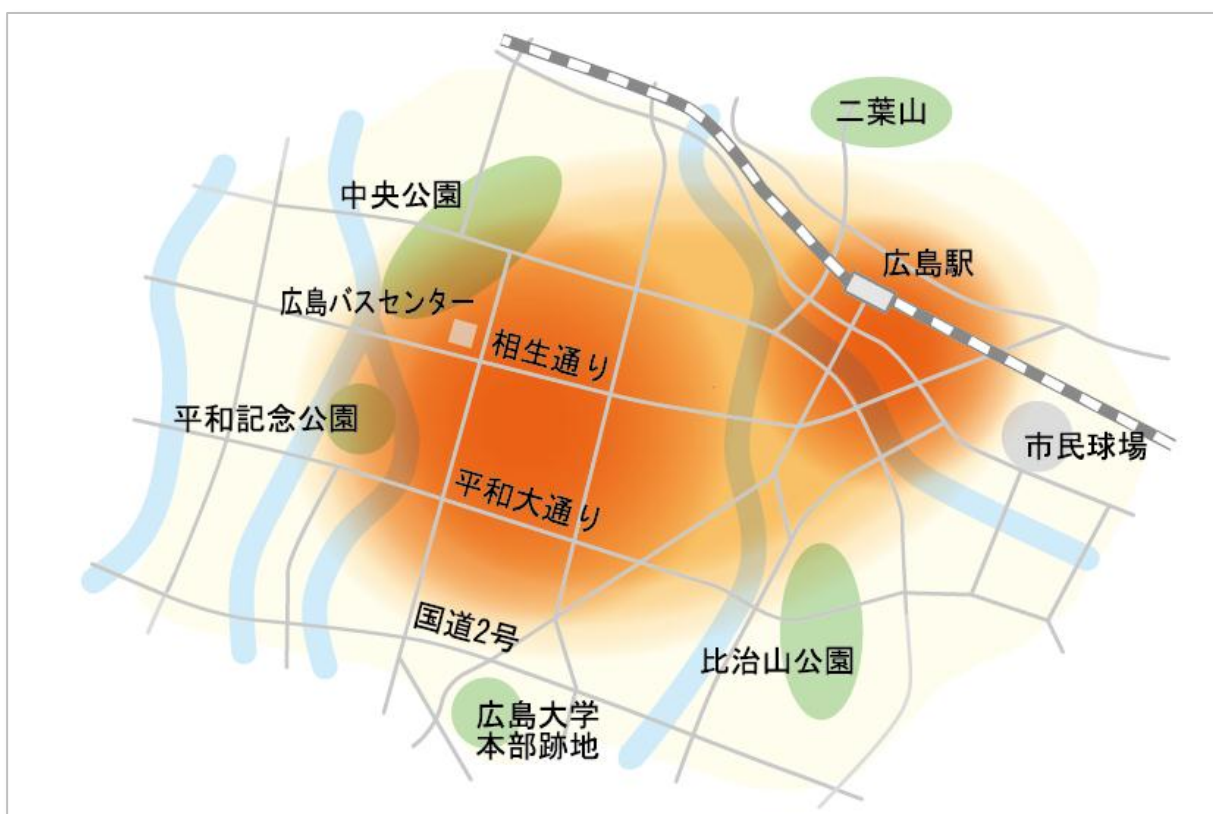
本市では、被爆 100 周年（平成 57 年（2045 年））を見据えて、世界に誇れる「まち」の実現に資する事業を「まちづくり先導事業」（参考資料参照）として位置付けて取り組んでおり、本プランも被爆 100 周年（平成 57 年（2045 年））を見据えて、都心の目指す姿や将来像を描きます。

また、その具体化に向けた施策については、広島市都市計画マスタープランの目標年次である平成 42 年（2030 年）に向けた取組とします。

4 対象範囲

対象範囲は、広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を東西の核とする「楕円形の都心」とします。

「楕円形の都心」のイメージ



（広島市都市計画マスタープラン(平成 25 年 8 月)より)